

弟の死にけるを哀しびて作る歌一首 并せて

短歌

一八〇四番

父母が	成しのまにまに	箸向かふ	弟の命は
朝露の	消易き命	神のむた	争ひかねて
葦原の	瑞穂の国に	家なみや	また帰り来ぬ
遠つ国	黄泉の界に	延ふつたの	己が向き向き
天雲の	別れし行けば	闇夜なす	思ひ迷はひ
射ゆ鹿の	心を痛み	葦垣の	思ひ乱れて
春鳥の	音のみ泣きつつ	あぢさはふ	夜昼知ら
ず	かぎろひの	心燃えつつ	嘆き別れぬ

反歌

一八〇五番

別れても またも逢ふべく 思ほえば 心乱れ
 て 我恋ひめやも

一八〇六番

あしひきの 荒山中に 送り置きて 帰らふ見れ
 ば 心苦しも